



令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果が発表されました。

4月19日（火）に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が8月末に発表されました。本校生徒の平均正答率は、どの教科もわずかではありますが残念ながら**全国・山口県平均を下回っていました**。ただ、問題の「**回答率**」は**全国・山口県平均を上回っており**、**難問にも粘り強く取り組んでいる**という結果が出ました。問題形式であれば、特に記述式の問題の正答率が低い傾向にあります。本校としてはこれまでの学力向上への取組の評価の一つとして真摯に受け止め、今後の学力向上に努めていくつもりです。



全国学力・学習状況調査とは？

- 調査の目的 ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育政策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ・そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査対象 ・国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

令和5年度の結果について（1）～教科に関する調査～

○国語について

〈望ましい状況〉

- ◎「書くこと」を問う問題全般の正答率が全国・山口県の平均より高い。
- ◎意見と根拠など、情報と情報との関係について理解しているかどうかを問う問題の正答率が高い。

〈今後の課題〉

- ▼歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題の正答率を上げる。

○数学について

〈望ましい状況〉

- ◎四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる問題の正答率が高い。
- ◎自然数の意味を理解しているかどうかをみる問題の正答率が高い。

〈今後の課題〉

- ▼表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率を上げる。

○英語について

〈望ましい状況〉

- ◎情報を正確に「聞き取ること」ができるかどうかを問う問題の正答率が高い。
- ◎疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかを問う問題の正答率が高い。

〈今後の課題〉

- ▼事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかを問う問題の正答率を上げる。



令和5年度の結果について（2）～生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査～

○質問紙について

〈「当てはまる」と答えた生徒が多かった項目〉

- ◎「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」
- ◎「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
- ◎「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」
- ◎「友達関係に満足していますか」

〈「当てはまらない」と答えた生徒が多かった項目〉

- ▼「自分にはよいところがあると思いますか」
- ▼「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」
- ▼「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」
- ▼「将来の夢や目標を持っていますか」
- ▼「朝食を毎日食べていますか」

〈気付き〉・昨年度に引き続き、地域連携関係で高い結果が出ました。「郷土愛が育っている」ことは、これまで本校が進めてきた地域連携教育の成果があらわれたものと手応えを感じています。

・自己肯定感が低く、自分の将来について肯定的にとらえている割合が全国・山口県の平均に比べて少し低いのが気になります。今年度、生徒たちはさまざまな経験を積み、成功体験を重ねていることから、今後の結果に期待しています。

由宇中学校 学力向上のための取組（一部）

本校では学力向上のために下の表のような取り組みをしています。これ以外にも教員の授業力向上のためのユニット型研修、小学校への出前授業なども行っています。また、現在学習委員会が中心になって「ドリルパークマッチ」を計画中です。クラスマッチ形式で楽しみながら学びに向かう姿勢を高めることが目的です。



朝の学習

朝学習の時間を活用し、各学年でセミナー、モジュール学習、ドリルパーク、読書などを行っている。



質問教室

テスト週間の放課後、下校時間までの時間でわからないことを担当教員に自主的に質問する時間を設定している。



由宇中塾

夏休み、生徒会執行部の呼びかけで行った学習会。教室を「もくもくルーム」「学び合いルーム」にわけ、自分のペースで自主学習を行った。

